

○議長（石井良司君） 次の通告者、16番 野村羊子さん、登壇願います。
〔16番 野村羊子さん 登壇〕

○16番（野村羊子さん） こんにちは。今回の私の質問は、持続可能な未来につながるまちづくりについて、大きな項目3点質問いたします。

(1)、三鷹市におけるSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みについて。

SDGsとは、2015年9月に国連で採択された地球全体の持続可能な開発目標です。17の目標をゴールに169のターゲットがあり、誰一人取り残さない社会実現を理念として掲げています。貧困、飢餓、紛争等の途上国を中心とした社会課題の解決のみならず、気候変動、人権、平和等の先進国、途上国共通の社会課題の解決について、この世界が、地球そのものが持続可能とするために2030年までに達成すべき目標が設定されています。達成するためには、政府、国際機関、民間企業、NGO、学術機関、市民など、さまざまなステークホルダーのパートナーシップが必要となります。三鷹市においても、SDGsの目的が基本構想に掲げる目的、平和、人権、自治そして循環型社会に合致するものと考えます。そこで、三鷹市におけるSDGsへの取り組みを具体化し、その見える化を行うことについてお伺いいたします。

ア、市のSDGsへの取り組みについて。

質問1、三鷹市におけるSDGsに対する取り組みは、今までどのようなものがあったのでしょうか。

質問2、市の職員研修で昨年、SDGsをテーマにしたものがあったと思いますが、その成果はどのようなものと捉えているのでしょうか。

質問3、「日経グローバル」ナンバー350号、2019年1月17日号掲載のSDGs先進度調査によると、三鷹市は658市区中25位となっています。これをどのように受けとめ、評価・検証しているのでしょうか。

質問4、SDGsについて今後どのように取り組んでいくのか、市長の見解をお伺いいたします。

イ、SDGsの見える化と普及啓発について。

木更津市は、各課の事務、業務が17ゴールのどれに当てはまるかを、ホームページの各課の案内や窓口の看板に、該当するアイコンを張りつけて見える化をしています。また、木更津市消費生活センターでは、小・中学生向けSDGs教材を作成し、出前講座を行うとのことでした。

質問5、三鷹市でも各課が担当業務を17ゴール、169ターゲットに照らし、

何に該当するのかわかる化することを提案いたします。市長の見解をお伺いいたします。

質問6、市の担当者などが小・中学校やコミュニティ・センターなどで出前講座を行うことについての市長の見解をお伺いいたします。

質問7、SDGsは、カードゲームがつくられ、体験的に学ぶワークショップがさまざまな場面で広がっています。職員研修や市民への普及啓発にSDGsカードゲームを導入することについて、市長の見解をお伺いします。

ウ、SDGsを「新しいものさし」とすることについて。

木更津市では、さらに消費生活相談員が2018年1月、公益社団法人消費者関連専門家会議（ACAP）の主催する第33回ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」論文募集において最優秀賞（内閣府特命担当大臣賞）を受賞しました。この「わたしの提言」論文では、SDGsの17ゴールを「新しいものさし」として導入し、市職員全体で問題意識を共有し、課題解決を推進していこうと提言しています。

質問8、市の職員全体でSDGsという「新しいものさし」で問題意識を共有し、課題解決や連携の基盤とすることへの市長の見解をお伺いいたします。

次に、大きな項目2番目、(2)、子ども食堂と地域の居場所づくりについてお伺いします。

子ども食堂は、全国で急激に増加している活動であり、昨年4月段階で全国に2,286カ所あるとの調査があります。子ども食堂は、バランスのとれた食事の提供、ひとりぼっちの孤食を防ぐ、忙しい保護者の支援、学校でも家庭でもない第3の居場所の提供など、多くの役割を担っています。多くは月1回程度の開催で、子どもの貧困対策には決して十分とは言えません。それでも、子どもたちが子どもに寄り添おうとする大人に出会える場として貴重であり、何かやりたい大人たちの地域の交流拠点としても重要であると考えます。三鷹市内でも、現在7カ所において子ども食堂が開かれていると聞きます。しかし、せっかく活動を開始した団体がこの春に休止したということです。理由は、開催場所の問題だったと聞きました。

ア、子ども食堂を公の施設で開催することについて。

子ども食堂を新たに始めたいと活動を始めようとする場合も、定期的に行える場の確保が課題だと聞きます。

質問9、現在三鷹市内で、子ども食堂はどのような場所において実施されていると把握しているでしょうか。

質問10、コミュニティ・センター、地区公会堂など、公的施設で子ども食堂

を開催する際の課題はどのようなものかを把握しているでしょうか。

イ、地区公会堂を、地域の居場所・食堂として活用することについて。

近年は子ども食堂のみならず、大人食堂の取り組みも散見されます。また、中高生ら、ユースの世代が集う場として、あるいは高齢者との交流の場として、孤立している人々の居場所として、食堂はわかりやすく、出かけやすい場であると考えます。しかし、地区公会堂はその貸出手续が容易ではなく、また、いつあいているかの情報も得にくいのが現状です。

質問 11、食事をベースにした居場所づくりを、地区公会堂など、公的施設で定期的に活用することについての課題とその課題解決への方向性をお伺いします。

質問 12、食事をベースにした居場所づくり支援のための施策展開について、市長の見解をお伺いいたします。

最後に、大きな項目 3 番目は、東京外環道工事について。

2016 年 12 月から、私は連続 11 回目、この質問をしています。

(3)、東京外郭環状道路整備事業の安全性確保について。

ア、シールドマシンの安全性について。

昨年 12 月、広島高速 5 号線の外径 13.7 メートルの泥水式シールドマシンが掘削開始 3 カ月後に破損し、5 カ月間の中断を余儀なくされました。地質が予測と異なったこととカーブするための操作などが複合的に作用したと推測されています。三鷹市域の地層はミルフィーユのようにさまざまな地層が折り重なり、角度を持っているため予測がつかないと言われていています。また、中央ジャンクションの北側も、南側もともにカーブを描いている部分があります。

質問 13、三鷹市に向かってきている東名ジャンクションから掘削を開始した 2 台のシールドマシンは現在どこにいて、どのくらいの速度で進んでいるのでしょうか。

質問 14、シールドマシンは三鷹市域にいつ到達する見込みかを把握しているのでしょうか。

質問 15、三鷹市域に入る前に、改めて三鷹市においてシールドマシンの安全性について、さまざまな異変が発生していることについて、事業者の説明会の開催を要求してきました。三鷹市も説明会開催を要求すると、これまでも回答、答弁がありました。事業者の回答はそれについてあったのでしょうか、お伺いいたします。

イ、換気所による大気汚染対策について。

現在、中央ジャンクション南側において、換気所設置のための開削工事が行

われています。

質問 16、開削部分の大きさと深さはそれぞれ何メートルでしょうか。

質問 17、中央ジャンクションで北行きトンネル、南行きトンネルそれぞれに1カ所ずつ設置される換気所は、それぞれトンネル内の何キロ範囲の排気ガスを集めて排気するのでしょうか。

質問 18、窒素酸化物やS P Mの除じん装置を設置するとされていますが、具体的な設備についての説明はあったのでしょうか。

質問 19、トンネル出入口から排気ガスの漏出を防ぐため、ジェットファンをトンネル内部に向けて設置するとされていますが、騒音、振動、低周波被害対策について、どのような対策をとる予定なのかについての説明はあったのでしょうか。

質問 20、トンネルからの排気ガス対策について、三鷹市民への具体的な説明会開催の予定はあるのでしょうか。

以上で壇上での質問は終わります。自席での再質問を留保いたします。よろしく願いいたします。